The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	放射線診療情報処理における入力設計について
Author(s)	松林, 隆
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1973, 33(3), p. 273-274
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/16289
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

研究速報

放射線診療情報処理における入力設計について

北里大学医学部放射線医学教室
松　林　隆

(昭和47年12月21日受付)

Input-Design for Information System in Clinical Radiology

By

Takashi Matsubayashi, M.D.

Department of Radiology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, Japan

Research Code No.: *206*

Key Words: *Information system, Computer, Input design*

When a computerized information system is to be developed in clinical radiology, thorough analysis and understanding with sound prospects, of the existing system of both the department and the hospital as a whole, should be done before it is determined what to supply to the computer as input data and it is designed how to do it.

The author gave some views in this paper as to the input-design for a computerized information system, based on his experience in the system development which is now in progress in the Department of Radiology at Kitasato University Hospital.

入力設計とは，コンピューターによる情報処理で，入力情報として何を入力するか，入力はどのような方法で行なうかを企画することである．したがつて情報処理の目的がはつきりしていることが前提であるが，たゞ現在可能な目的を考えるだけではなくて，できるだけ確かな見通しの上に立つた将来の目的をも必要とすることが特徴である．このためには，使用するコンピューター・施設・人員の能力，放射線部門としておよび病院全体としてのシステムの能力，効率を十分把握する必要がある．ＥＤＰＳ化の成否はコンピューター導入以前のシステム造りにあると言つて過言ではない．現在北里大学病院においては放射線診療業務ＥＤＰＳ化のためのシステム分析・設計の作業が進行中であるが，今までの経験に基づいて入力設計に関する意見を述べたい．

入力シートに最終診断名を入れるか入れないかをきめるとき，病院の総合システムとして情報処理のシステム設計が行なわれているならば，放射線部門から最終診断名を入力する必要はない．病歴センターから入力するＩＣＤ（国際疾病分類）などによる最終診断名と，放射線部門から入力する診療記録をコンピューターで結合して取り出すことができるからである．たゞしこの際，患者登録番号として1患者1番号の統一永久番号制を病院として採用していることが前提となる．患者の性，生年月日，初診年月日などについても同じことが言えるが，もし時間単位で年令を数える必要があつたり，同じ日に行なつた検査の施行時刻または順序を記録しておく必要があれば，そのた

めの入力設計をしておかねばならない．放射線部門として必要な出力の内容は，入力設計の段階ではつきりしたものでなくてはならない．

入力の方法についても，出力として何を，いつ要求されるかによつてちがつてくるが，パンチカードによる場合でもそれぞれの立場で最も合理的な方法を工夫すべきである．カード穿孔を行なうとき，依頼票，診断報告書などの原票から穿孔作業用の入力シートを作る過程が入る方法と，原票をそのまま入力シートとして穿孔作業ができるように依頼票や診断報告書の形式を設計する方法が考えられる．前者の場合には入力シートを作るのに，専門知識・熟練を必要としない，できるだけ簡易な作業方法を工夫することが大切であり，後者の場合にはコンピューターの入力を考えるあまり，依頼票や報告書などが日常業務上かえつて今までよりも不便なものになつては意味がない．近い将来端末装置を使つて，直接コンピューターに入力することも多くの施設で可能となるであろうし，そのためのソフトウエアも開発されるであろうが，コンピューターへの入力のために従来よりも業務が煩雑なものにならないように設計することが大切である．